

nord c2d

ユーザー・マニュアル
Nord C2D

OS Version 1.x

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。






このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。**アース接続を外す場合は、電源プラグをコンセントから取り外してから行う。
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**感電やショートのおそれがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
 - 電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき
 修理が必要なときは、ヤマハ修理ご相談センターへ依頼してください。
- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対に行わない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



● 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



● 雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。

- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



● 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



● 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- 付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線しない。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。

● 本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

● 地震時は本製品に近づかない。

● 本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

輸入販売元：株式会社ヤマハミュージックジャパン
楽器営業本部 LM営業部 輸入商品課
〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11
TEL: 03-5488-5445
<http://www.nordkeyboards.jp/>

Table of Contents

1 はじめに

ありがとうございます!	4
開発ストーリー	4
主な特長	4
このマニュアルについて	4

2 オーバービュー

パフォーマンス・エリア	5
エフェクト/プログラム・エリア	5
マスターレベル・ノブ	5
キーボード	5
ノブについて	5
ドローパーについて	5
ボタンについて	5

3 接続する

ペダルを接続する	6
スウェル・ペダル・インプット	6
ロータリー・コントロール・インプット	6
サステイン・ペダル・インプット	6
MIDIとUSBの接続	6
USBの接続	6
MIDIアウト	6
MIDIイン	6
ベース・ペダルを接続する	7
オーディオの接続	7
モニター・イン	7
メインL/Rアウト	7
ヘッドフォン・アウト	7
ロータリー・スピーカー・アウト	7

4 使い始める

プログラムについて	8
プログラムを選択する	8
プログラムをエディットする	8
メモリー・プロテクト	8
プログラムを保存する	9
ライブ・メモリー	9
フルセットのドローパー	9
プリセットについて	9
プリセットをエディットする	9
プリセットを作成する	10
エフェクトをつける	10
アンプ・エミュレーションをオンにする	10
ロータリー・エフェクト	10
オルガン・モデルを選択する	10
下鍵盤をスプリットする	11
Sound Managerを使う	11
USBドライバーをインストールする	11
Sound Managerをインストールする(Win)	11
Sound Managerをインストールする(Mac)	11
Sound ManagerとC2Dを接続する	11

5 Nord C2Dリファレンス

マスターレベル・ノブ	12
[SHIFT]ボタン	12
オルガン・エリア	12
ドローパー	12
プリセット	12
プリセットのエディットと作成	12
[DRWB A], [DRWB B]ボタン	13
プログラムでのプリセットの選択	13

オルガン・モデルを選択する	13
ペダル・レジスター	13
B3モデル	13
ドローパー	13
パーカッション	13
ビブラート	14
VXモデル	14
Voxビブラート	14
Farfモデル	14
Farfビブラート	15
パイプ・オルガン	15
トレムラント	15
カブラー	15
シンセ・ベース・モデル	16
下鍵盤をスプリットする	16
ペダル・プリセット	16
プログラム・エリア	16
プログラムとは?	16
プログラムを切り替える	16
プログラムを保存する	16
別名で保存する	16
[UP/DOWN]ボタン	17
ディスプレイ	17
ライブ・メモリー	17
エフェクト	17
スピーカー・モデル	17
ロータリー・スピーカー・コントロール	17
ディレイ	17
EQ	17
ドライブ	17
リバーブ	18

6 メニュー

システム・メニュー	19
メモリー・プロテクト	19
トランスポーズ	19
ファイン・チューン	19
アウトプット・ルーティング L/Rモード	19
アウトプット・ルーティング Ext Rotaryモード	19
キーボードトリガーモード	19
サステイン・ペダル・タイプ	19
サステイン・ペダル・モード	19
スウェル・ペダル・タイプ	19
ローター・コントロール・タイプ	19
ローター・ペダル・モード	20
MIDIコントロール・ローカル	20
MIDIアップパーチャンネル	20
MIDIローパーチャンネル	20
MIDIペダル・チャンネル	20
MIDIコントロール・チェンジ・モード	20
MIDIプログラム・チェンジ・モード	20
MIDI SEND CC	20
MIDIダンプ・ワン	20
MIDIダンプ・オール	20
サウンド・メニュー	20
B3トーンホイールモード	20
B3キー・クリック・レベル	20
B3キー・バウンス	20
B3パーカッションDB9ミュート	21
B3パーカッション・ディケイ・ファスト	21
B3パーカッション・ディケイ・スロー	21
B3パーカッション・レベル・ノーマル	21
B3パーカッション・レベル・ソフト	21
ロータリー・スピーカータイプ	21
ロータリー・バランス ベース/ホーン	21
ロータリー・ホーン・スピード	21

ロータリー・ホーン・アクセラレーション	21
ロータリー・ローター・スピード	21
ロータリー・ローター・アクセラレーション	21
パイプ・ペダル・レベル	21
パイプ・アップパー・レベル	21
ブラック/リリース・メニュー	21
シンセ・ベース・ブラック	21
シンセ・ベース・リリース	21

7 MIDI機能

MIDI機能について	22
キーボード・ペロシティ	22
プログラム・チェンジ	22
MIDIシステム・エクスクループ	22
シーケンサーを使う	22
接続する	22
ローカル・オン/オフについて	22
MIDIチャンネル	22
プログラム・チェンジ	22
コントロール・チェンジ	22
プログラム・CCダンプ	23
プログラム・ダンプを送信する	23
MIDIコントローラー・ダンプを送信する	23
MIDIシステム・エクスクループ・ダンプを受信する	23
MIDIコントローラー・リスト	23
MIDIインプリメンテーション・チャート	24

8 付録

Nord Sound Manager	25
動作環境	25
アップデート	25

9 インデックス

インデックス	26
--------	----

Nord C2D仕様

仕様	27
----	----

1 はじめに

ありがとうございます！

このたびは、Nord C2Dをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の機能とサウンドをお気に入りいただき、末永くご使用いただければ幸いです。

開発ストーリー

まず、開発ストーリーからお話ししましょう。Nord C2Dの開発に際して、私たちはすでに10年以上の歳月をかけてデジタル・トーンホイール・オルガン・モデルを開発してきました。この技術を使った最初の製品は、様々なエレクトリック・ピアノなどに代表されるエレクトロ・メカニカル・キーボードのサウンドを内蔵したNord Electroシリーズでした。このシリーズでは様々なサウンドを1台に収めるために、オルガン・サウンドは必ずしも私たちが求めていた完璧なものではありませんでした。

そのような経緯がありましたので、このシリーズが発売されてレビュー記事などで専門誌に掲載され始めた頃は、オルガン・サウンドについて非常にヒヤヒヤしていたのですが、各誌の評価は非常に高く、中にはこのシリーズよりもずっと高価でマニアックなオルガン・クローン機よりも良いサウンドだという評価もありました。とはいえ、Nord Electroシリーズは1段鍵盤でしたし、オルガン以外のサウンドも多く入っていましたから、オルガン・クローン機としては基本的に「番外」扱いでした。

Nord C2Dの先代に当たるC1、C2の開発時に私たちが考えていたのは、純粋なオルガン専用機を開発することでした。つまり、オルガンに特化したキーボード・アクションやエフェクトを追究し、コンポ・オルガンの決定版を作り上げる、そのことだけに集中しました。

コンポ・オルガンの開発に際して、重要なポイントのいくつかはすでに分かっていたのですが、それ以外の要素については開発を進めながら確認していくスタイルを採りました。また、最終的なサウンドだけでなく、そのサウンドを発生させる回路やパーツの1つ1つに至るまで、細心の注意を払いました。膨大な労力を投入してどんな些細なことも漏らさず完璧に突き詰めたことで、トーンホイール・サウンドが完璧なだけでなく、レスポンスや使用感までもオリジナルのオルガンを忠実に再現できたと確信しています。

Nord C1開発後の次なるステップとして、私たちはクラシカルなオルガン・サウンドに目を向けました。オルガン開発に並ぶほどの膨大な時間を費やして、非常に美しいサウンドのパロック・オルガンを見つけ出し、細心の注意を払ってそのサウンドをサンプリングしました。

そして、さらなる進化を求めてC2Dではオリジナルのオルガンと同様のオペレーションで演奏できるよう、フルセットのドロワーやプリセット機能を搭載しました。また、ロータリー・スピーカー・エミュレーションを刷新し、これまで以上に真に迫る122サウンドの再現に成功しました。

もちろん、数々の賞を受賞したサウンドの源であるB3モデルを進化させることも忘れていません。C2Dでは、キーオン、キーオフ・クリックなどの細かい部分も各トーンホイールごとのレベルやミックスと同様、さらに向上させました。このように作り上げましたNord C2Dをどうぞ存分にお楽しみください。

主な特長

Nord C2Dは、3種類のビンテージ・オルガンの高品位デジタル・エミュレーション、サンプリングによるパロック・パイプ・オルガンのサウンド、そして数々のアンプ/キャビネット・シミュレーションを含む豊富なエフェクトをライトウェイトなボディに収めた1台です。

2段鍵盤、ベース・ペダル・インプット、ハイレベル・アウトプットを装備し、オリジナルのビンテージ・オルガンと全く同一、あるいはそれ以上のセットアップを実現しました。

サウンドを発生させるパーツの1つ1つまでこだわって再現されたことにより、サウンドがビンテージ・オルガンそのものであるだけでなく、レスポンスや使用感も含めて完璧に再現されています。

Nord C2Dには、次のような特長があります：

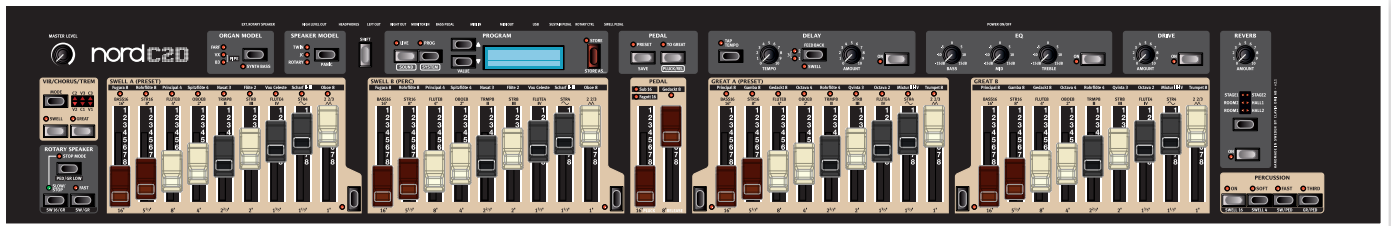
- ビンテージ・トーンホイール・オルガン・モデルを搭載。
- VoxとFarfisaの2種類のトランジスター・オルガン・モデルを搭載。
- サンプリングによるパロック・パイプ・オルガン・サウンドを内蔵。
- フルセットのドロワー、プリセット機能を装備。
- ゲイン・キャラクターの異なる2種類のコンポ・アンプ・モデルに加え、ロータリー・スピーカー・キャビネット・モデルを内蔵。
- ロータリー・スピーカーは、モデルの選択が可能。
- 穏やかな歪みからハードなディストーションまで表現できる、チューブスタイルのオーバードライブを内蔵。
- タップテンポ機能を装備し、上鍵盤にのみ使用することも可能なビンテージ・サウンドのディレイを内蔵。
- 3バンドEQを搭載。
- 6タイプのリバーブ(ルーム、ステージ、ホール・タイプ)を内蔵。
- 61鍵ウォーターフォール型キーボードを2段で装備。オルガン演奏に不可欠な歯切れの良い演奏が可能なハイ・トリガー・ポイント機能を内蔵。
- MIDI対応のベース・ペダルを接続してベース・レジスターの演奏が可能なベース・ペダル専用MIDI端子を装備。
- 標準ジャック仕様とともに、11ピンLeslie端子によるハイレベル・アウトプット端子を装備し、外部ロータリー・スピーカーへダイレクトに接続可能。11ピン・コネクター使用時は、本体でのパネル操作でロータリーの回転速度切替も可能。

このマニュアルについて

このマニュアルは、リファレンス・マニュアルとしてご利用いただけるように編集しています。多くの場合、機能を調べるとそれに関連したヒントも同時に得られるようになっています。

このマニュアルではLCDディスプレイは単に「ディスプレイ」と表記します。また、「キーボード」と表記されている場合、本体の鍵盤だけでなく、MIDIインに入ったノート・メッセージを含む場合もあります。

2 オーバービュー



Nord C2Dのフロント・パネルは2つのエリアで構成され、分かりやすいレイアウトになっています。

パフォーマンス・エリア

このエリアにはフルセットのドローバーがあり、オルガン・サウンドの音作りや演奏中の細かい調整などが行えます。また、プリセットとドローバーを切り替えるボタン類は鍵盤部の左側にあります。

エフェクト/プログラム・エリア

このエリアでは、エフェクトやリバーブ、スピーカー・シミュレーションの音作りや、プログラムへの保存や呼び出しなどの操作、システム・メニューなどで各種設定を行います。プログラムにつきましては16ページを、エフェクトにつきましては17ページをご参照下さい。

マスター・レベル・ノブ

マスター・レベル・ノブで本機のハイレベル・アウトプットやヘッドホン端子を含む全体音量を調節します。また、このノブのセッティングはプログラムにメモリーされませんので、ノブの向きは音量と常に一致しています。

キーボード

Nord C2Dのキーボードは、オルガン演奏に欠かせない歯切れの良いプレイができるハイ・トリガー・アクションを内蔵しています。

ノブについて

本機のノブはポテンショメーター・タイプを採用しています。そのため、プログラムを呼び出したときに、各パラメーターの値とノブの向きが一致しませんが、ノブを回し始めるとすぐにそのパラメーターの値がノブの向きを「キャッチ」して一致します。

マスター・レベル・ノブは例外的に、ノブの向きが常に音量を表します。

ドローバーについて

ドローバーは、オルガン・モデルの音作りで使用します。キーボードの左側にあるプリセット・パネルの〔DRWB A〕または〔DRWB B〕(あるいはその両方)がオンになっている時(それぞれのLEDが点灯します)に、ドローバーで音作りができます。プリセットがオンになっている場合は、そのプリセット・サウンドが発音します。

ボタンについて

ボタンは、それぞれの機能により動作が次のように異なります：

セレクトター・ボタン

複数のオプションから1つを選ぶパラメーターなどで使用しているボタンです。ボタンを押すたびに、プリントされてあるオプションに順次切り替わり、それに対応するLEDが点灯します。オプションの中には、複数のLEDが同時に点灯することによって選択されるものもあります。



On/Offボタン

On/Offボタンにはその隣にLEDがあり、その機能のオン/オフ状態を表示します。

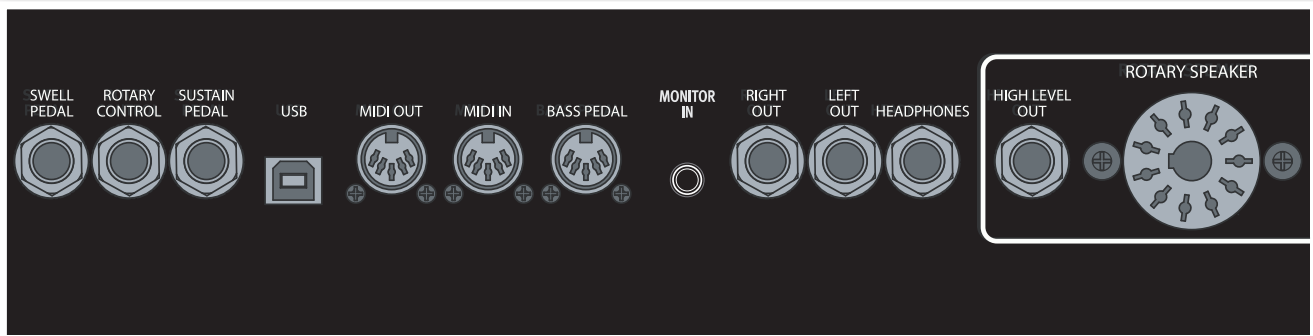


〔SHIFT〕ボタン

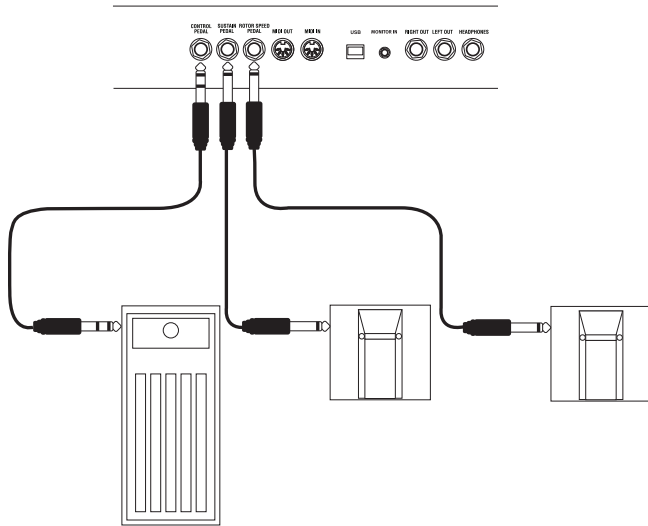
ボタンの中には「もう1つの機能」があるものもあり、〔SHIFT〕ボタンを押しながらそのボタンを押すことでその機能にアクセスできます。「もう1つの機能」の名称は、そのボタンの下にプリントされています。



3 接続する



ペダルを接続する



Nord C2Dにはサスティン・ペダル端子、ロータリー・スピード・コントローラー端子、スウェル・ペダル端子の3つのペダル・インプットがあります。

スウェル・ペダル・インプット

この端子は、選択したオルガン・モデルのスウェル・レベルをコントロールする際に使用します。エキスパレッション・ペダルを〔SWELL PEDAL〕インプットに接続する場合は、必ずチップ・リング・スリーブのステレオ・プラグが付いているステレオ・ケーブルをご使用下さい。ペダル側のジャックもステレオ・ジャックのものをご使用下さい。また、ペダルの抵抗値が10～50kΩのものをご使用下さい。設定を簡単に行えるために、一般的なペダルの仕様に対応したプリセットを内蔵していますので、ご使用のペダルに合った設定をお選び下さい。この設定はシステム・メニューで行います。詳しくは19ページをご参照下さい。

ロータリー・コントロール・インプット

この端子はロータリー・スピーカーのスピードを切り替える際に使用します。接続するコントローラーは、一般的なサスティン・ペダル、ペダルスイッチまたはハーフムーン・スイッチ（別売オプション）が使用できます。ハーフムーン・スイッチを使用する場合は、システム・メニューで「Rotor Control Type」を設定する必要があります。詳しくは19ページをご参照下さい。

サスティン・ペダル・インプット

標準プラグ仕様のスイッチ・タイプのペダルを接続します。ペダルを踏むと、その時に弾いていた音にサスティンがかかって長く伸びます。接続するペダルは一般的なサスティン・タイプのペダルがご使用できます。また、ペダルの極性をシステム・メニューで変更できます。詳しくは19ページをご参照下さい。

- ① *パイプ・オルガンの演奏時は、サスティン・ペダルを踏んでもサスティンはかかりません。*

外部MIDI機器などからNord C2Dを演奏させる場合に、サスティン・ペダル・メッセージに反応しないように設定することができます。この時、Nord C2Dの音源部は反応しなくても、本機のMIDIアウトからはサスティン・ペダル・メッセージが出力されます。この設定はシステム・メニューで行えます。詳しくは19ページをご参照下さい。

MIDIとUSBの接続

MIDIの送受信に関する機能は、システム・メニュー内のMIDIセクションで設定できます。詳細は、22ページをご参照下さい。

USBの接続

Nord C2DとコンピュータをUSBケーブルで接続して、OSアップデートやプログラムの管理が行えます。コンピュータからNord C2Dの新しいOSを送り込んだり、本機のメモリー内容をコンピュータにコピーしてバックアップにするといった作業が行えます。

- ① *Windowsコンピュータをお使いの場合、本機とUSB接続する際にドライバースoftwareが必要になります。ドライバースoftwareはNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からダウンロードできます。*

MIDIアウト

上下の鍵盤、パネル上の全てのノブやボタン（〔SHIFT〕、〔STORE〕の各ボタンと〔MASTER LEVEL〕ノブは除きます）による操作は、MIDIメッセージとしてMIDIアウト端子から出力されます。また、〔BASS PEDAL〕インプットから入力されたMIDIメッセージも、本機のMIDIアウト端子から出力されます。

MIDIイン

外部MIDIキーボードやコンピュータからのMIDIメッセージを本機で受信する場合は、MIDIイン端子に接続します。

ベース・ペダルを接続する

Nord C2Dのペダル用レジスター(音色)を使用する場合は、MIDIコントローラー(MIDIベース・ペダルが最適です)のMIDIアウトと本機の(BASS PEDAL)端子をMIDIケーブルで接続します。ペダル・レジスターはMIDIチャンネルに関係なく、全てのMIDIノート・メッセージを受信すると発音します。

オーディオの接続

モニター・イン

MP3プレイヤーやCDプレイヤーの出力を(MONITOR IN)端子に接続して、Nord C2Dのヘッドフォン端子でモニターすることができます。MP3/CDプレイヤーからの音楽に合わせて練習することができます。

- ❶ この端子に入力された信号は、本機のエフェクトやメインのL/Rアウトには出力されません。

メインL/Rアウト

(LEFT OUT)、(RIGHT OUT)端子はライン・レベル、アンバランス接続のオーディオ出力です。ジャックは標準ジャックで、この端子からアンプやレコーディング機器に接続します。

オーディオ接続の鉄則：

- アンプの電源を入れる前に全ての接続を完了させます。
- 電源を入れる時は、アンプの電源を最後に入れます。
- 電源を切る時は、アンプの電源を最初に切ります。

ヘッドフォン・アウト

ヘッドフォンを接続する際に使用します。ジャックは標準ステレオ・ジャックです。

- △ 大音量での演奏は難聴など、聴覚の異常が生じる場合がありますので、音量にはご注意ください。

ロータリー・スピーカー・アウト

(HIGH LEVEL OUT)、(ROTARY SPEAKER)端子には、標準ジャックと11ピンLeslie™スタンダード・コネクターがあります。ハイレベル・アウトは定格出力14Vのアンバランス接続で、ロータリー・スピーカー・キャビネットの内蔵アンプに接続するための端子です。それ以外の機器に接続すると、機器が破損する恐れがありますので、接続しないで下さい。

トーンホイール・オルガンのみをハイレベル・アウトプットや11ピン・アウトから出力し、その他のサウンドをメインL/Rアウトから出力することも可能です。もちろんこれ以外の組み合わせも設定できます。詳しくは19ページをご参照下さい。

4 使い始める

本章では、Nord C2Dの各機能をご紹介しますながらC2Dに親しんでいただければと思います。本機ของผู้ザー・インターフェイスは、可能な限りライブでも直感的に操作できるように設計いたしました。本章をお読みになり、Nord C2Dの各機能をご理解の上、本機を使いこなしていただければと思います。

プログラムについて

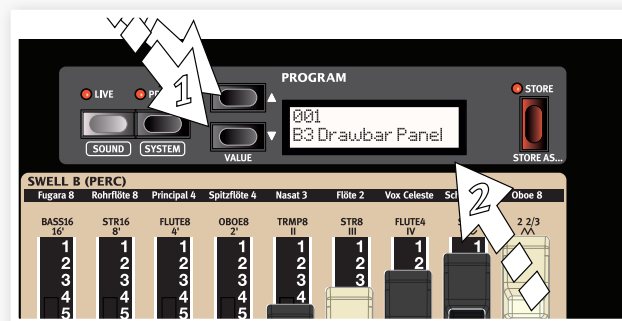
Nord C2Dの様々な機能を駆使して作成したサウンドが、プログラムとしてメモリーされています。メモリー・エリアには126個のプログラムをメモリーでき、全てのプログラムはエディットでき、新たに名前を付けて上書き保存することができます。工場出荷時のプログラム(ファクトリー・プログラム)はNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)または本機に付属のCDから入手できます。

126個のプログラムのうち、最初の104個がファクトリー・プログラムで、Nord C2Dでどのようなサウンドが出るのかを紹介しています。105～126の22個は、何も設定されていない「空のプログラム」です。

この「空のプログラム」には、使い始めの段階でファクトリー・プログラムに影響を及ぼすことなく新たな音色をメモリーすることができます。本機に慣れてきましたら、残しておきたいファクトリー・プログラムとそうでないものが徐々にハッキリとしてくるかも知れません。

プログラムを選択する

- ① ディスプレイの左側にある[UP]または[DOWN]ボタンを押してプログラムを選択します。



- ② プログラムを選択すると、プログラムの番号と名前がディスプレイに表示されます。この時、パネル上の赤いLEDが点灯しているパラメーターが、そのプログラムでアクティブになっているパラメーターです。

プログラムをエディットする

エフェクトのセッティングを変えるには、ノブやボタンを操作するだけで簡単に変わります。セッティングを変えると、ディスプレイ内のプログラム番号の隣にアスタリスクが表示されます。これは、プログラムのセッティングがエディットされ、まだ保存が済んでいない状態を示しています。

003*
Jimmy's

この状態のまま別のプログラムを選択すると、それまでに行ったエディットは失われ、次に元のプログラムを選択した場合、エディットをする前の状態(保存されている状態)に戻っています。

メモリー・プロテクト

Nord C2Dは、メモリー・プロテクト機能をオンにした状態で工場から出荷されます。この機能は、誤ってプログラムを上書きしてしまうのを避けるためのもので、プログラムをエディットして保存する場合には、これをオフにします。

- ① [SHIFT] ボタンを押しながら[PROG] ボタンを押すとシステム・メニューに入ります。メニューに入りましたら[SHIFT] ボタンを放します。
- ② メモリー・プロテクトは、このメニューの最初にあります。

Memory Protect
Mode: On

メモリー・プロテクトがディスプレイにすぐに表示されない場合は、表示されるまで[DOWN] ボタンを繰り返し押します。

- ③ [SHIFT] ボタンを押しながら[DOWN] ボタンを押して、設定をオンからオフに切り替えます。

Memory Protect
Mode: Off

メニュー内の各設定は、ほとんど全て変更した時点でその状態をメモリーし、次にその設定を変更するまでその状態をキープします。

- ❶ メモリー・プロテクトの設定は、本機の電源を切った後も記憶されます。

プログラムを保存する

プログラムをエディットして、気に入った音色ができましたら、プログラムの保存を試みましょう。手順は次の通りです：



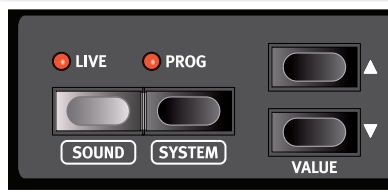
- ① ディスプレイの右側にある〔STORE〕ボタンを押します。すると、〔STORE〕ボタン、〔PROGRAM〕ボタンのLEDが点滅します。
- ② 元のプログラム・ナンバーに上書き保存をしたくない場合は、〔UP/DOWN〕ボタンを使ってプログラムを保存する場所（ナンバー）を選択します。



- ③ 〔STORE〕ボタンをもう1度押し、プログラムの保存を実行します。
これでエディットされたプログラムが指定したナンバーに保存されました。プログラムには、その時オンになっていたプリセットも含めて保存されます。
 - ④ 最初に〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔STORE〕ボタンを押すと、保存するプログラムをリネームすることができます。カーソルの移動は〔UP/DOWN〕ボタンで、文字の変更は〔SHIFT〕+〔UP/DOWN〕ボタンで行います。リネームが済みましたら②、③の手順で保存を実行します。
- ❶ 保存を途中で中止したい場合は、2度目に〔STORE〕ボタンを押す前に〔SHIFT〕ボタンを押します。
 - ❷ メモリー・プロテクトがオフの状態では、〔STORE〕ボタンをダブルタップ（素早く2度押し）すると、元のプログラム・ナンバーに上書き保存できます。

ライブ・メモリー

通常のプログラムとは別に、特別なメモリーがあります。それが「ライブ・メモリー」です。ライブ・メモリーがオンの状態では、すべてのパネル上のセッティングをその場で随時保存します。電源を切ったり、別のプログラムに切り替えても、それ以前のセッティングはライブ・メモリー上に保存されていますので、次回に電源を入れたり、ライブ・メモリーを選択すれば、電源を切ったり、別のプログラムに切り替える寸前のセッティングをそのまま再現できます。



ライブ・メモリーの内容を通常のプログラムとして保存したい場合は、上述の保存操作で保存できます。また、プログラムをライブ・メモリーに保存することも可能です。この場合、ライブ・メモリーにあった音色とプログラムの音色が入れ替わります。

フルセットのドローバー

Nord C2Dには、9本で1セットのドローバーが上鍵盤、下鍵盤でそれぞれ2セットずつ装備されています。上鍵盤と下鍵盤のドローバーの間にある本数の少ないドローバーは、ベース・ペダル用のドローバーです。

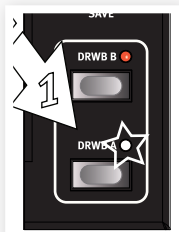
各ドローバー・セットには、「Swell A (Preset)」、「Swell B (Perc)」、「Pedal」、「Great A (Preset)」、「Great B」とプリントされています。ドローバー・セットを選択するには、プリセット・パネルにある〔DRWB A〕または〔DRWB B〕ボタンを押す方法と、ドローバーの下にあるドローバー・セレクター・ボタンを押す方法があります。

プリセットについて

上下各鍵盤の左側にある〔PRESET〕ボタンは、3種類あるプリセットから1つを選んだり、2セットあるドローバーのどちらかを選択する際に使用します。これにより、プログラムを切り替えることなく複数のセッティングにアクセスすることができます。

これらの音色セッティングのうち、3つはプリセットとしてメモリーされているセッティング、2つはドローバーです。〔DRWB A〕または〔DRWB B〕ボタンを押すと、ドローバーAまたはBがアクティブとなり、リアルタイムで音色を操作することができます。

- ① ファクトリー・プログラムのほとんどでは、最初のプリセットがオンになっていますが、最初のプログラムである「001 B3 Drawbar Panel」では Swell A(上鍵盤)、Great A(下鍵盤)の各ドローバー・セットがオンになっています。

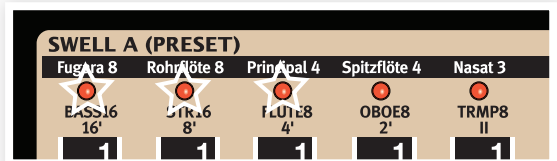


この時、ドローバー・セットの右下にあるLEDと、プリセット・パネルにあるドローバーAのLEDがそれぞれ点灯します。

- ❶ ドローバーAまたはBがオンの状態でメモリーされているプログラムでは、常にパネル上のドローバーのセッティングを反映した音色になります。

プリセットをエディットする

- ① 〔UP〕ボタンを押したままにして、メモリーの最後までプログラムをスクロールし、ファクトリー・プログラムに影響を及ぼさず、自由にエディットの実験が行える、空のプログラムを選択します。
- ② スウェル(上鍵盤)のプリセット・パネルにある〔PRESET 1〕ボタンを押します。



- ③ この時、Swell A (Preset)ドローバーの上にあるLEDのうち、左から3つが点灯します。
- ④ 〔PRESET 1〕ボタンを押しながら、Swell Aドローバーの左から3本のうち、1本を押し込んでみます。この時、音色が変化しているのが聴き取れます。3本のドローバーをすべて押し込んだ状態にすると、LEDは点灯していても音はまったく出ない状態になります。
- ⑤ プリセット・ボタンを放すと、ドローバーのセッティングがそのプリセットにメモリーされます。しかし、このままではプログラムがエディットされたままの状態ですので、このプリセットを今後も使用したい場合はプログラムの保存を行います。

プリセットを作成する

- ① 空のプログラムを選択します。
- ② プリセット・パネルにある〔DRWB A〕ボタンを押し、Swell A (Preset)ドローバーやChorus/Vibratoを使って音作りをします。
- ③ 〔SHIFT〕ボタンを押しながらプリセット・ボタンのうち1つを押すと、セッティングがプリセットとしてメモリーされます。
- ④ プリセットやプログラムを選択した時にパーカッションがオンになっている状態にしたい場合は、Swell B (Perc)ドローバーを使用し、パーカッションのセッティングを行い、気に入った音色ができましたらプリセット1にメモリーします。
- ⑤ プログラムを選択した時に、オンになっているようにしたいプリセットを選択します。

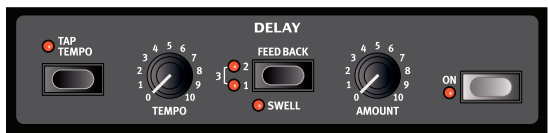
❖ ドローバーAやBがオンにしたプログラムの場合、そのプログラムを選択すると、その時のドローバーAまたはBのセッティングを反映したサウンドになります。

- ⑥ 気に入った音色ができましたら〔STORE〕ボタンを押し、プログラムの保存先(ナンバー)を選択します。

各オルガン・モデルのプリセットにつきましては、12ページの「プリセット」をご参照下さい。

エフェクトをつける

- ① プログラムを選択し、演奏しながら…



- ② …ディレイをオンにし(LEDが点灯します)、〔FEEDBACK〕セレクターを繰り返し押してみます。

フィードバックの設定は、LEDの点灯パターンで表示されます。〔FEEDBACK〕セレクターを押す都度、設定が順次切り替わり、2つのLEDが同時に点灯している時は、フィードバックが最大の状態です。

- ③ 演奏しながら〔AMOUNT〕、〔TEMPO〕ノブを動かしてみます。この操作で、ディレイ音の音量とディレイ・タイムが変化します。
- ④ リバーブをオンにします(LEDが点灯します)。

- ⑤ リバーブのセレクター・ボタンを繰り返し押してみます。

☀ 〔SHIFT〕ボタンを押しながらセレクター・ボタン(〔ORGAN MODEL〕は除きます)を押すと、設定が切り替わる順序が逆方向になります。

- ⑥ エフェクトをオフにします。

エフェクトをオフにしている時も、セレクター・ボタンを押すとエフェクトのセッティングが変化しますが、音色そのものは変化しません。

☀ このことを利用して、演奏中の音色に影響を及ぼすことなくエフェクトのセッティングを変更しておくことができます。



アンプ・エミュレーションをオンにする

- ① 〔SPEAKER MODEL〕ボタンを押し、アンプ・エミュレーションをオンにします。
この時〔SPEAKER MODEL〕のLEDが点灯します。
- ② セレクター・ボタンを繰り返し押して、各オプションによる音の変化を聴いてみます。
- ③ パネル右上にある〔DRIVE〕ノブは、アンプ・エミュレーションやロータリー・シミュレーターのドライブをコントロールします。ボタンを押してオンにし、ノブを回すとサウンドにオーバードライブがかかって徐々に歪んでいきます。

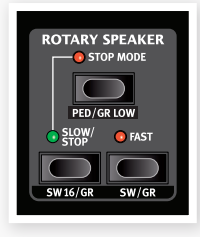
❖ スピーカー・モデルは、パイプ・オルガンには使用できません。

ロータリー・エフェクト

ロータリー・エフェクトを使用するとオルガン・サウンドにドラマティックな変化をつけることができます。Nord C2Dのロータリーはファスト、スロー、ストップの3段階があります。ストップはエフェクトがオフになるのではなく、ロータリー・スピーカーが静止した状態を再現したものです。

- ① 〔SPEAKER MODEL〕をオンにして、セレクター・ボタンでロータリーを選択します。
この時、〔DRIVE〕ノブでロータリーのオーバードライブ量を調節できます。

- ② パネル左側のロータリー・セクションにある〔SLOW/STOP〕、〔FAST〕ボタンを押すとロータリーのスピードが順次切り替わります。



ロータリーのスピードは瞬時に切り替わるのではなく、徐々に切り替えたスピードに変化していきます。その間の素晴らしいサウンドもぜひお楽しみください。

- ③ 〔STOP MODE〕ボタンを押すと、スロー/ストップの1スピードモードになります。
この時、〔STOP MODE〕のLEDが点灯します。
- ④ 〔SLOW/STOP〕ボタンを繰り返し押すと、ファストとストップに順次切り替わります。

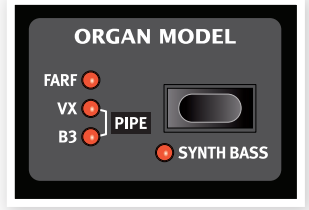
1スピードモードは、ストップとファストのみだった初期のロータリー・スピーカーの動作を再現したものです。

☀ フットスイッチを〔ROTOR CONTROL〕インプットに接続している場合は、フットスイッチでロータリー・スピードをコントロールできます。

オルガン・モデルを選択する

- ① 〔ORGAN MODEL〕のセレクター・ボタンを繰り返し押すと、B3、Vox、Farfisaの各エミュレーション、サンプリングによるパイプ・オルガンの4タイプのオルガン・モデルが順次切り替わります。

各モデルとも、オルガンの音色はドローバーを使って作ります。Farfisa、パイプ・オルガンでは、ドローバーがOn/Offスイッチ的な動作になります。



下鍵盤をスプリットする

ペダル・レジスターは、MIDIベース・ペダルを使用する以外にも、下鍵盤をスプリットして最低音から2オクターブまでの範囲で演奏できます。

- ① B3モデル、またはそれを使用したプログラムを選択します。
- ② パネル中央部にあるペダル・セクションにある〔TO GREAT〕ボタンを押すと下鍵盤がスプリットされます。
- ③ 〔PRESET〕のLEDが点灯している場合は、〔PRESET〕を押してオフにします。
- ④ スプリットされた下鍵盤の下から2オクターブの範囲を演奏しながら、ペダル用ドローバーを使ってベース音の音作りをします。
- ⑤ 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔ORGAN MODEL〕ボタンを押すと、ベース音がシンセ・ベースに切り替わります。オルガン・モデルがVoxやFarfisaの場合、ベース音はシンセ・ベースになります。パイプ・オルガンの場合は、専用のベース・レジスターが自動的に選択されます。



Sound Managerを使う

USBドライバーをインストールする

Windows PCをお使いの場合は、Nord Sound Managerを使用してNord C2Dとデータのやり取りをする前にClavia USBドライバーをインストールする必要があります。インストール手順は次の通りです：

☼ Macユーザーの方はこの部分は読み飛ばしてしまっても構いません。

- ① コンピュータがインターネットに接続している場合、コンピュータにNord C2DをUSB接続すると、Windowsアップデート・サービスによってドライバーが自動的にダウンロードされることがあります。
- ② 手でインストールする場合は、本機の付属CDに収録されているドライバー・インストーラーをご使用下さい。Clavia USB Driverフォルダに入っています。
- ③ Clavia USB Driver setupをダブルクリックしてインストール作業を開始します。

Sound Managerをインストールする(Win)

- ① Nord Sound ManagerのWindows版をNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からダウンロードします。または、本機の付属CD内のSound Managerフォルダを開きます。
- ② 「Install Nord Sound Manager v6.xx.exe」を起動させ、セットアップ・プログラムに表示される手順に従います。
- ③ Nord Sound Managerは、プログラム・ファイル・フォルダにインストールされます。

インストール実行前に別のフォルダを指定することも可能です。

- ④ インストール過程で表示される各ウィンドウの内容を確認し、「Next」ボタンを押してインストール作業を進めます。

「Cancel」ボタンを押すと、インストールが中止されます。インストールが完了しましたら、「Close」ボタンを押してWindowsのデスクトップに戻ります。

Sound Managerをインストールする(Mac)

- ① Nord Sound ManagerのMac OSX版をNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からダウンロードします。
- ② ダウンロードしたイメージ・ファイル(.dmg ファイル)を開き、「Nord Sound Manager v6.xx.app」をアプリケーション・フォルダにドラッグします。

☼ Nord Sound Managerの最新版はNordウェブサイトで購入できます。

Sound ManagerとC2Dを接続する

- ① Nord C2Dの電源がオンになっていることを確認し、本機のUSB端子とコンピュータのUSBポートをUSBケーブルで接続します。
- ② Nord Sound Managerをプログラム・ファイル・フォルダ、またはスタート・メニュー(Win)から、アプリケーション・フォルダ(Mac)から起動します。

Nord C2Dとの接続は、Sound Manager起動時に自動的に行われます。

- ③ Sound ManagerがNord C2Dを見つけると、Sound Managerの画面右下に接続状況が表示されます。同時にこの時、Programタブが自動的に表示されます。
- ④ Nord Sound Managerの画面には、Nord C2Dにメモリーされているすべてのプログラムがリスト表示されます。Sound Managerの詳しいPDFマニュアル(英文)は、Nordウェブサイトからダウンロードできます。

基本的な操作のご紹介をこれで終わります。次章からはリファレンス編がスタートします。

5 Nord C2D リファレンス

マスター・レベル・ノブ

マスター・レベル・ノブでNord C2Dのライン・アウトとヘッドフォン・アウトの音量を調節します。このノブのセッティングはプログラムにメモリーされません。



{SHIFT} ボタン



本機のボタンの多くは第2の機能があり、その機能名はボタンやノブの下にプリントされています。これらの機能を使用する時に{SHIFT}ボタンを押しながら、その機能のボタンを押します。

オルガン・エリア

Nord C2Dには、デジタル・モデリングのトーンホイールB3オルガン・モデル、2種類のトランジスター・オルガン・モデル(VX、Farf)、サンプリングによるパロック・パイプ・オルガン、合計4種類のオルガン・モデルを内蔵しています。

オルガン・エリアには次の3つのメイン・セクションがあります：

- **ドロワー・セクション**：オルガンの基本的なサウンドを作ります。このセクションは上下鍵盤、ベース・ペダル・レジスターの3セクションがあります。
- **パーカッション・エリア**：トーンホイール・オルガンの特徴的サウンドであるパーカッション・エフェクトのコントロールを行います (B3オルガン・モデル選択時のみ使用可能です)。
- **ビブラート/コーラス・エリア**：各オルガン・モデルによって異なるコーラス/ビブラートのコントロールを行います。

ドロワー

Nord C2Dにはフルセットのドロワーが装備されています。ドロワーは5組のセットに分かれています。

- 左側にある9本のドロワーの2セットは、スウェル・マニュアル(上鍵盤)用のもので、それぞれ「Swell A (Preset)」, 「Swell B (Perc)」とプリントされています。
- 中央部分にある2本のドロワーは、ペダル用です。
- 右側の9本のドロワーの2セットは、グレート・マニュアル(下鍵盤)用のもので、それぞれ「Great A (Preset)」, 「Great B」とプリントされています。

B3, VXモデルを選択した場合は、ドロワーを押し込んだり、引き出したりにして音色を作ります。

オルガン・モデルがFarfまたはPipeの場合、ドロワーはそのレジスターのオン/オフを切り替えるスイッチとして動作します。

ドロワーで音色を作る時は、鍵盤の左側にあるプリセット・パネルの{DRWB A}または{DRWB B}ボタンを押してからドロワーを操作します。

プリセット

Nord C2Dの各プログラムには6つのプリセットが入っています。これらのプリセットは上下各鍵盤の左側にある{PRESET}ボタンを押して呼び出すことができます。この時、選択したプリセットのLEDが点灯し、そのプリセット(またはドロワー)の音が出ます。

プログラムを選択した時に、必ず特定のセッティングが呼び出されるようにしたい場合は、そのセッティングをプリセットとしてメモリーし、そのプリセットが選択された状態でプログラムにメモリーします。プリセットは、オルガン・モデルごとにそれぞれ異なるセッティングをメモリーできます。

B3スウェル・プリセット1

上鍵盤のドロワーSwell AまたはSwell Bのセッティングとコーラス/ビブラートのオン/オフをメモリーできます。Swell Bのセッティングを使用した場合、パーカッションのセッティングもメモリーできます。

☀ パーカッションのセッティングはプリセット1に追加できます。詳しくは以下をご覧ください。

B3スウェル・プリセット2&3

ドロワーのSwell AまたはSwell Bのセッティングをメモリーします。コーラス/ビブラートのオン/オフ、パーカッションのセッティングはメモリーしません。

B3グレート・プリセット1

下鍵盤のドロワーGreat AまたはGreat Bのセッティング、コーラス/ビブラートのオン/オフをメモリーできます。

B3グレート・プリセット2&3

ドロワーGreat AまたはGreat Bのセッティングをメモリーします。

❶ コーラス/ビブラートのモードはプログラムで共通してメモリーされます。

Vox, Farfisaスウェル・プリセット1~3

ドロワーSwell AまたはSwell Bのセッティングをメモリーします。

Vox, Farfisaグレート・プリセット1~3

ドロワーGreat AまたはGreat Bのセッティングをメモリーします。

❶ Vox/Farfisaのコーラス/ビブラートのセッティングは、プログラムにメモリーされます。

パイプ・オルガン・プリセット1~6

上下鍵盤それぞれのストップ(ドロワー)Swell AまたはB, Great AまたはBのセッティング、カブラーのセッティング、トレムラントのオン/オフをメモリーします。

❶ トレムラントのモードはプログラムにメモリーされます。

ペダル・プリセット

オルガン・モデルに関係なくペダル・プリセットを1つ、各プログラムでメモリーできます。シンセ・ベースを使用している場合、ブラック/リリースのセッティングもペダル・プリセットにメモリーできます。

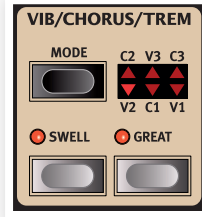
プリセットの編集と作成

プリセットを編集するには、{PRESET}ボタンを押しながらドロワーなどを操作し、メモリーします。

プリセットを最初から作成する場合は{DRWB A}または{DRWB B}を押し、ドロワーなどでセッティングを作り、{SHIFT}ボタンを押しながら{PRESET}ボタンを押してメモリーします。

ビブラート

オリジナルのトーンホイール・オルガンに内蔵されていたビブラートとコーラス・スキャナーは、タップ式ディレイ・ラインと回転式スキャナーで構成されていました。ビブラート・エフェクトにはオーディオ信号にフェイズ・シフトがかかるようになっていました。コーラス・エフェクトでは、フェイズ・シフトされた信号と原音をミックスする仕掛けでした。



コーラス/ビブラートではそれぞれ3種類のコーラス(C1~C3)、ビブラート(V1~V3)をモード・ボタンで選択できます。オン/オフは上下鍵盤別々に行えます。

下鍵盤でコーラス/ビブラートをオンにすると、同時にトーンホイール・ベース・レジスターにもコーラス/ビブラートがかかります。

キー・クリック・コントロール

キー・クリックは、不規則に発生する接点跳動(コンタクト・バウンス)によるもので、トーンホイール・オルガン・サウンドの重要な特徴の1つです。これは、トーンホイール・オルガンの設計当初には予想されていなかった、いわば設計ミスだったのですが、そのサウンドが逆にミュージシャンたちには好評だったのです。Nord C2Dではキー・クリックの音量をサウンド・メニューで調節できます。詳しくは20ページをご参照下さい。

※ サウンド・メニューにはトーンホイールのキャラクターを4タイプから選べる「トーンホイール・モード」がありますのでぜひお試しください。このパラメーターで新品同様のクリーンなサウンドから使い古した、味のあるサウンドまで、それぞれ特徴的なサウンドを選べます。

VXモデル

VXモデルのオリジナルであるVox™オルガンは、1960年代初期のトランジスター・オルガンの中で最も有名なオルガンと言えるでしょう。トランジスター技術の発達に伴い、オルガン楽器のサイズをコンパクトで運搬しやすいものにすることが可能になりました。トーンホイール・オルガンの力強いサウンドに比べて、トランジスター・オルガンのサウンドは線が細く、耳につくようなサウンドなのですが、その特徴的なサウンドとクールなデザイン(特にクローム・フィニッシュのZ型スタンドは最高にクールでした)により当時人気を集めました。そしてそのサウンドが時を超えてNord C2Dで忠実に再現されています。

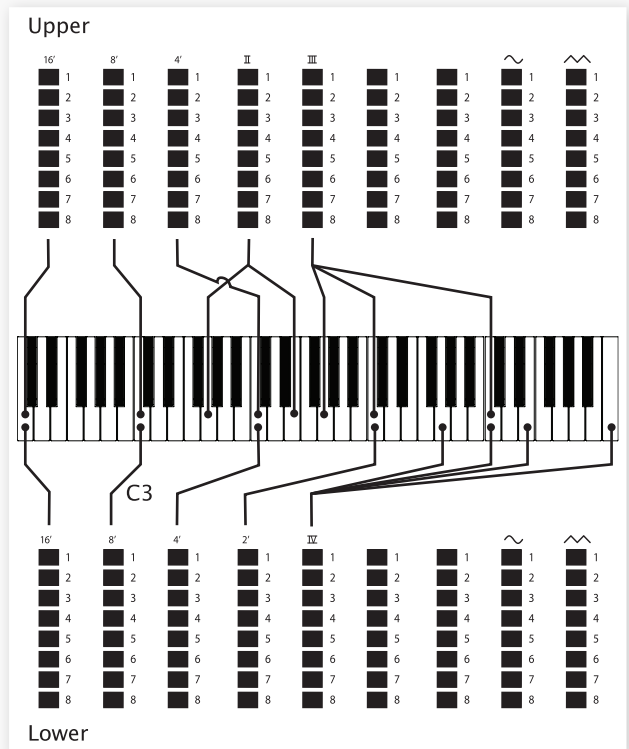
ドローパー

VXモデルの各ドローパー名は、ドローパーの上に2行あるうちの下の行にプリントされています。

16' 8' 4' 2' II III IV ~ ^^

ドローパーの基本的な操作方法につきましては、12ページをご参照下さい。

VXモデルのドローパーでは、左から7本のドローパーで各倍音のレベルを調節します。各ドローパーで、演奏したピッチに対して一定の間隔があるピッチ(倍音)の音量を調節します。下の図はC3のキーを弾いた時の各ドローパーのピッチの間隔を示したものです。この間隔は上下鍵盤で異なるものになっています。



右から2本のドローパーは、すべての倍音の音量をまとめて調節できるので、1つはフィルターがかかったソフトでダークなトーンサウンド、もう1つはフィルターを通してないブライトでパワフルなサウンドです。

△ この2本のドローパーが完全に押し込まれていると、音が全く出ませんのでご注意ください。

Voxビブラート

VXモデルでも複数のタイプのビブラートとコーラスを使用できます。操作はビブラート・セクションにある(SWELL/GREAT)ボタンで行います。ビブラートのV3は、オリジナルのVoxオルガンのビブラートを忠実にモデルリングしたものです。

❶ VXモデルでは、ビブラートは上下鍵盤で同じセッティングのものが共通でかかります。

Farfモデル

Farfisaオルガンは、その特徴的なブザーのようなサウンドで、これまでに作られたあらゆるキーボード楽器の中でもすぐにそれと分かるサウンドでした。Farfisaオルガンでは音色名に実際の楽器名を使って表現していましたが、それらは決して特定の楽器音を再現したものではなく、例えばフルートならソフトな音、オーボエは線の細くよく通る音、トランペットならブラストっぽい音といったように、その雰囲気に近い楽器音を充てていました。

レジスター・セレクター

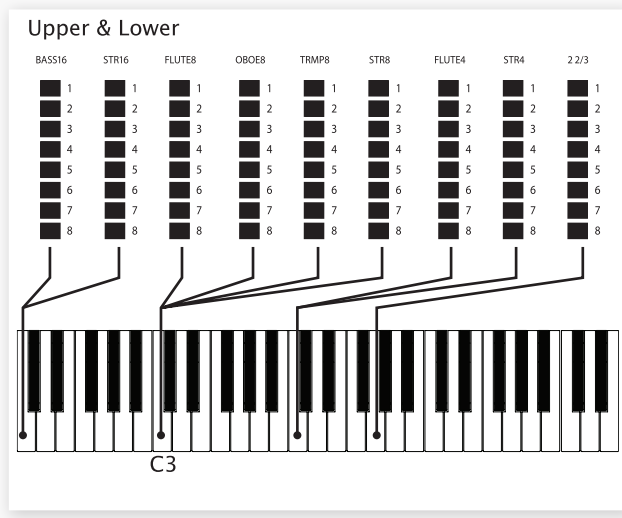
各ドローパー名は、ドローパーの上にある2行の上の行にあります。

BASS16 STR16 FLUTE8 OBOE8 TRMP8 STR8 FLUTE4 STR4 2 2/3

ドローパーはオン/オフ動作の「レジスター・セレクター」として機能します。オリジナルのFarfisaオルガンでは「ロッカー」タイプのスイッチで音色を切り替えて(実際にはフィルター設定を切り替えて)様々な音域のサウンドを出していました。それと同様に、C2Dでもドローパーが各音色のオン/オフ・スイッチとして動作します。次ページの表は、各レジスター・セレクター名とオリジナルの音色名をまとめたものです。

レジスター・セレクトター	音色名	パネルでの表記
1	Bass 16	BASS16
2	Strings 16	STR16
3	Flute 8	FLUTE8
4	Oboe 8	OBOE8
5	Trumpet 8	TRMP8
6	Strings 8	STR8
7	Flute 4	FLUTE4
8	Strings 4	STR4
9	弾いたピッチの音、その1オクターブ上、5度上の音が同時に重なったブライトな音色	2 2/3

下の図は、C3のキーを弾いた時の各音色でのピッチの間隔を示したものです。同じピッチ間隔のものもありますが、サウンド・キャラクターは異なります。



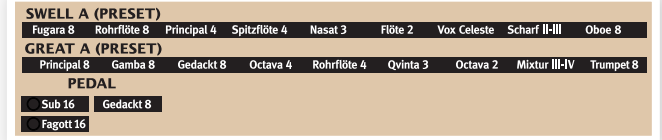
Farfビブラート

オリジナルのFarfisaオルガンには「ライト」、「ヘビー」の2種類のビブラートがあり、それぞれ異なるスピードのビブラートでした。Nord C2DのFarfモデルでは複数のビブラートとコーラスを内蔵しました。これらはビブラート・セクションの(ON)ボタンで使用できます。

- ① V1～V3はオリジナルのFarfisaオルガンのビブラートをベースにモデリングしたものです。
- ① Farfモデルのビブラートは上下鍵盤で共通にかかります。

パイプ・オルガン

パイプ・オルガン・モデルは、バロック・パイプ・オルガンを音色ごとにサンプリングしたものです。C2Dのドロワーは「ストップ」として機能し、各ストップ名はドロワーの上にプリントされています。ストップは、Farfモデルでのレジスター・セレクトターと同様、オン/オフ動作です。



上下各鍵盤にはそれぞれ9種類のストップが内蔵されています。各ストップ名はドロワーの上にプリントされています。ペダル用には3種類のストップがあり、ドロワーをいっぱい引き出すとSubストップにFagot 16ストップを追加できます。

- ① パイプ・オルガン使用時は、スピーカー・モデル、サスティン・ペダル、ドライブ機能は使用できません。

トレムラント

パイプ・オルガン使用時のビブラート/コーラス機能は、本物のパイプ・オルガンと同様にトレムラント(震音装置)として機能します。トレムラントとは、パイプ・オルガンのパイプに送る空気の色に変化を付けることによりビブラートのような効果を生み出すものです。Nord C2Dのトレムラントは上下鍵盤別々にかけることが可能です。また、トレムラントには2種類のスピード(V、C)それぞれに3種類のデプス(1～3)があります。

- ☀ (SHIFT) ボタンを押しながらトレムラントを切り替えると、タイプが切り替わるサイクルが逆方向になります。
- ① ベース・ストップにはトレムラントはかかりません。

カブラー

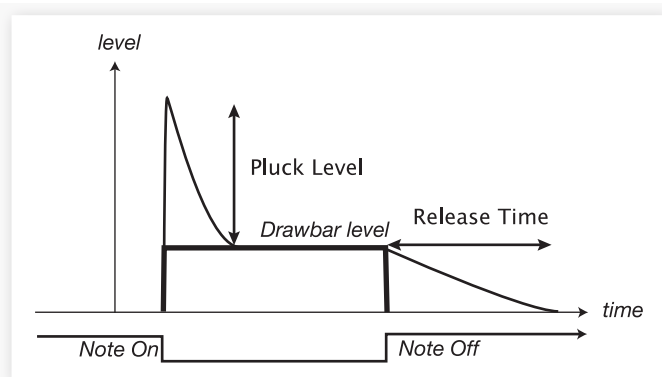
パイプ・オルガン使用時は、ロータリー・スピードとパーカッション・コントロールのパネルはパイプ・オルガンのカブラーとして機能します。カブラーとは、上下どちらかの鍵盤にあるストップをもう一方の鍵盤で演奏できる機能です。この機能により、上下鍵盤それぞれにあるストップを組み合わせ使用し、非常に大規模なサウンドを作り上げることが可能になります。また、必要に応じてペダル・ストップも上下鍵盤のストップと組み合わせ使用することができます。

カブラー名	内容
PED/GR LOW	下鍵盤の最低音からF3までの範囲でベース・ストップの音が加わります。ベース・ペダルがない場合に便利です。
SW 16/GR	上鍵盤のストップを下鍵盤で演奏できるカブラーです。この時、上鍵盤のストップは1オクターブ下がります。
SW/GR	上鍵盤のストップをトランスポーズさせずに下鍵盤で演奏できるカブラーです。
SWELL 16	上鍵盤のストップを1オクターブ下げた音を重ねて演奏できるカブラーです。
SWELL 4	上鍵盤のストップを1オクターブ上げた音を重ねて演奏できるカブラーです。
SW/PED	上鍵盤のストップをベース・ペダルで演奏できます。
GR/PED	下鍵盤のストップをベース・ペダルで演奏できます。

シンセ・ベース・モデル

シンセ・ベース・モデルはB3、VX、Farfモデルの使用時に選択できます。B3モデル使用時は(SHIFT)ボタンを押しながら(ORGAN MODEL)ボタンを押すことでオリジナルのトーンホイール・ベース・レジスターとシンセ・ベース・モデルを切り替えることができます。

シンセ・ベース・モデルは、モノフォニックのベース・シンセサイザーで、リリース・タイム(ベース・ペダルから足を離しても音が伸びた状態になるパラメーター)の調節が可能です。また、アタックをさらに強調できるブラック・パラメーターもあります。ブラックとリリース・タイムの調節は、(SHIFT)ボタンを押しながらベース・ドローバーを操作する方法と、(SHIFT)+(TO GREAT)ボタンを押す方法があります。



下鍵盤をスプリットする

(TO GREAT)ボタンを押すと、下鍵盤はC3を境に2つの領域に分割されます。この時、低音域の2オクターブでペダル・ドローバーを使った音色を演奏できます。

(SHIFT)ボタンを押しながら(TO GREAT)ボタンを押すとブラック/リリース・メニューに入ります。このメニューはシンセ・ベース・モデルの使用時のみに利用できます。

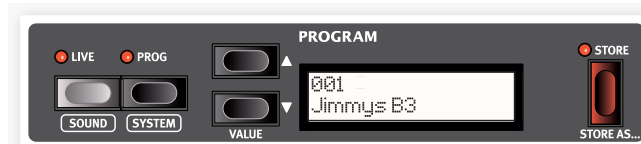


ペダル・プリセット

(PEDAL PRESET)ボタンを押すことで、音色がペダル用ドローバーとプリセットで交互に切り替わります。

(PEDAL PRESET)ボタンを押しながらペダル用ドローバーを操作すると、ペダル・プリセットのエディットができます。

プログラム・エリア



プログラムとは？

音色に関係する全てのノブやボタンのセッティングは、プログラム、ライブの2種類のストレージ・エリアにメモリーできます。メモリーしたセッティングは、それぞれのボタンを押すことで選択できます。

プログラムは126個までメモリーできます。プログラムを選択すると、そのナンバーと名前がディスプレイに表示されます。プログラムの選択は(UP/DOWN)ボタンを使用します。

△ プログラムをエディットして保存が済んでいない場合、別のプログラムを選択するとエディットした内容が失われてしまいますのでご注意ください。

ライブ・メモリーにはパネル全体のセッティングがメモリーされます。また、エディットをするとその場で自動的に保存されますので、本機の電源を切ったり、別のプログラムを選択した後に再びライブ・メモリーを呼び出すと、電源を切ったり、別のプログラムを選択する前の状態を再現できます。

プログラムを切り替える

プログラムが選択されている状態で(UP/DOWN)ボタンを押すと、プログラムが切り替わります。

ライブ・メモリーが選択されている状態で(UP/DOWN)ボタンを押すと、プログラムが選択できる状態になります。

プログラムを保存する

プログラムを保存する手順は、次の通りです：

- ① (STORE)ボタンを押します。すると保存先のナンバーを指定する画面が表示され、(STORE)ボタンの隣にあるLEDが点滅します。
 - ❶ ディスプレイに「Memory is Protected」と表示されている場合は、システム・メニューでメモリー・プロテクトをオフにします。8ページをご参照下さい。
 - ② プログラムの保存先を(UP/DOWN)ボタンで指定し、(STORE)ボタンをもう1度押すと指定した保存先にプログラムが保存されます。
 - ③ この時、ディスプレイに「Stored」と短い時間で表示されます。
- 2度目に(STORE)ボタンを押す前に(UP/DOWN)、(PROG)、(LIVE)の各ボタン以外のボタンを押すと、保存作業を中止します。

別名で保存する

この機能を使うと、プログラムに名前を付けて保存することができます。

- ① (SHIFT)ボタンを押しながら(STORE)ボタンを押します。するとディスプレイの2行目の最初の文字に下線が表示されます。
- Name:
Jazzy Dudes
- ② (UP/DOWN)ボタンで下線(カーソル)が移動します。
 - ③ (SHIFT)ボタンを押しながら(UP/DOWN)ボタンを押すと、文字を選択できます。使用できる文字はa~z、A~Z、0~9、スペース、ハイフン(-)です。
 - ④ 新たな名前が入力が済み、(UP/DOWN)ボタンでプログラムの保存先を指定したら(STORE)ボタンをもう1度押します。
 - ⑤ (STORE)ボタンをさらにもう1度押すと、指定した保存先に入力した名前でプログラムが保存されます。
 - ❶ プログラム・エリアはシステム、サウンド、ブラック/リリースの各メニューに入る時、設定を変更する時にも使用します。詳細は21ページをご参照下さい。

〔UP/DOWN〕ボタン

ディスプレイの左側にある〔UP/DOWN〕ボタンにはいくつかの機能があります。このボタンで126個のプログラムから1つを選択します。また、プログラムのナンバーや名前はディスプレイに表示されます。

システム、サウンド、ブラック/リリースの各メニューに入っている場合、〔UP/DOWN〕ボタンでメニュー内のパラメーターを選択し、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔UP/DOWN〕ボタンを操作することで、そのパラメーターの設定を変更します。メニューに関する詳細は、19ページをご参照下さい。

ディスプレイ



プログラムを選択すると、そのナンバーと名前がディスプレイに表示されます。



プログラムをエディットすると、プログラム・ナンバーの右にアスタリスク(*)が表示されます。これは、そのプログラムがエディットされ、まだ保存が済んでいない状態を示しているものです。

システム、サウンド、ブラック/リリースの各メニューに入っている場合、メニュー内のパラメーターとその設定値がディスプレイに表示されます。

ライブ・メモリー

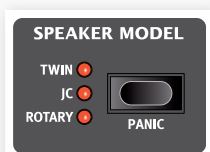
〔LIVE〕ボタンを押すと、パネル上のすべてのセッティングは変更する都度その場でライブ・メモリーに保存されます。この時、本機の電源を切ったり、別のプログラムを選択しても、そのセッティングはライブ・メモリーに保存され続けます。その後再び電源を入れたり、ライブ・メモリーに戻ると、電源を切ったり、別のプログラムを選択する前の状態が再現されます。

ライブ・メモリーの内容をプログラムとして保存したい場合、通常のプログラムを保存する操作で行えます。また、プログラムをライブ・メモリーに移すことも可能です。この場合、そのプログラムとライブ・メモリーの内容が入れ替わります。

エフェクト

スピーカー・モデル

Nord C2Dでは2種類のスピーカー/アンプ、ロータリー・エミュレーションが選択できます。



JC、Twinはそれぞれ異なるアンプ、スピーカー・キャビネット・サウンドをシミュレートしたものです。オーバードライブの量は、パネルの右上にある〔DRIVE〕セクションの〔AMOUNT〕ノブで調節できます。

ロータリーは、ロータリー・スピーカーとその内蔵アンプを再現したものです。C2Dでは、複数のロータリー・スピーカー・モデルを内蔵し、サウンド・メニューで選択できます。詳しくは21ページをご参照下さい。

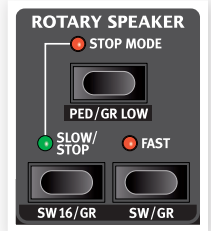
☞ パネル右上にある〔DRIVE〕ノブでロータリー・スピーカーのオーバードライブ量を調節できます。

❶ ロータリー・スピーカーの回転スピードはパネル左側のロータリー・スピード・コントロールで切り替えることができます。

〔SPEAKER MODEL〕ボタンを繰り返し押し、アンプ・モデルのタイプが切り替わります。

ロータリー・スピーカー・コントロール

ロータリー・スピーカーの回転スピードは、パネル左側にある〔ROTARY SPEAKER〕セクションにあるボタンで切り替えます。

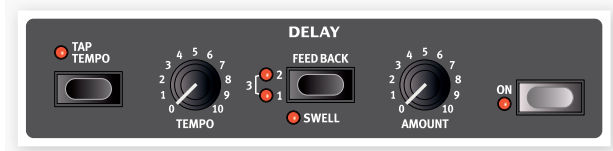


リアパネルにある〔ROTARY CONTROL〕インプットにサスティン・ペダルやハーフムーン・スイッチ(別売オプション)を接続してロータリーの回転スピードをコントロールすることもできます。

サスティン・ペダルを接続した場合、回転スピードの切替をモーメンタリー(ペダルを踏んでいる間だけスローまたはファストになる)またはトグル(ペダルを踏んだ都度回転スピードが切り替わる)のどちらかを選択できます。また、ストップ・モードがオンになっている場合、回転スピードはファスト、ストップの間で切り替わります。

詳しくは19ページのシステム・メニューをご参照下さい。

ディレイ



Nord C2Dにはディレイ・エフェクトが内蔵されています。〔ON〕ボタンを押してエフェクトのオン/オフを切り替えます。

❶ ディレイがオフになっていても、ノブやボタンでディレイの設定を変えることができます。

〔TEMPO〕ノブでディレイ・タイムを設定します。〔TAP TEMPO〕ボタンを繰り返し押し設定することも可能です。

〔AMOUNT〕ノブでディレイのエフェクト量を調節します。

〔FEEDBACK〕ボタンでディレイのフィードバック量を切り替えます。LEDが点灯していない状態ではフィードバック量が最低の状態、ディレイのリピートは1回だけになります。2つのLEDが両方とも点灯した状態でフィードバックが最大になります。

❶ 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔FEEDBACK〕ボタンを押すと、上鍵盤のみにディレイがかかるようになります。

EQ

トレブル、ミッド、ベースの3バンド・イコライザーです。各バンドの周波数は100Hz、1kHz、4kHzで、ブースト/カット幅は±15dBです。〔ON〕ボタンでEQのオン/オフを切り替えます。



ドライブ

〔DRIVE〕ノブでアンプ・シミュレーションやロータリー・スピーカーのドライブ・ゲインを調節できます。〔ON〕ボタンでドライブのオン/オフを切り替えます。



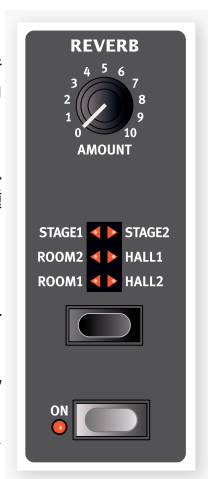
スピーカー・モデルを使用していない場合、〔DRIVE〕ノブはチューブ・オーバードライブのコントロールとして機能します。

リバーブ

リバーブは様々な音響空間のナチュラルな残響音をシミュレートするエフェクトです。〔ON〕ボタンでリバーブ全体のオン/オフを切り替えます。

〔AMOUNT〕ノブで原音とエフェクト音のバランスをコントロールします。セレクター・ボタンで次の6種類のリバーブ・タイプを切り替えます。

- ROOM1：減衰が短めのルーム・アンビエンス
- ROOM2:減衰が短めで、ブライتناキャラクターのルーム・アンビエンス
- STAGE1：中程度の長さの残響で、メロウなキャラクターのリバーブ
- STAGE2：中程度の長さの残響で、ややブライتناトーンのリバーブ
- HALL1：大ホールの残響特性をシミュレートしたリバーブで、メロウなキャラクターで長めの残響音
- HALL2：ややブライتناキャラクターのホール・リバーブ



6 メニュー

システム、サウンドの各メニューの設定は、変更するとすぐに反映され、次にその設定を変更するまでその状態で保存されます*。各メニューには〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕または〔SOUND〕〔PROG〕または〔LIVE〕ボタンを押して入ります。〔UP/DOWN〕ボタンでメニュー内のパラメーターを選択し、〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔UP/DOWN〕を押して設定を変更します。メニューから抜けるには、〔PROG〕または〔LIVE〕ボタンを押します。MIDIの設定はシステム・メニューの後半で行えます。シンセ・ベース・モデルのブラック/リリース・メニューは〔SHIFT〕ボタンを押しながらPEDALセクションの〔TO GREAT〕ボタンを押して入ります。このメニューでの設定はプログラムの一部としてメモリーされます。

❶ * MIDIローカル・オン/オフの設定は電源投入時に必ずオンになります。

システム・メニュー

メモリー・プロテクト

この設定をオンにするとプログラム・メモリーが保護され、プログラムの保存が行えません。工場出荷時もオンの設定になっています。プログラムを保存する場合は、この設定をオフにします。システム、サウンドの各メニューの設定やライブ・メモリーは、この設定がオンの場合でも保護されません。

レンジ：On(デフォルト)、Off

トランスポーズ

Nord C2Dのピッチを半音単位で移調させることができます。

レンジ：±6半音(デフォルト=0)

ファイン・チューン

Nord C2Dのチューニングを微調整します。

レンジ：±50セント(デフォルト=0)

アウトプット・ルーティング L/Rモード

オルガン・モデルごとに外部エフェクターを使用したり、別々のアンプを使用したい場合に、この機能を使用してオルガン・モデルごとに出力先を設定します。ここではメインL/Rアウトから出力するオルガン・モデルを選択します。

レンジ：All, Pipe+Electr (Vox & Farf), Pipe+B3, Pipe

△ ハイレベル・アウトまたは11ピン・アウトに何も接続されていない場合は、すべてのオルガン・モデルの音がメインL/Rアウトから出力されます。

アウトプット・ルーティング Ext Rotaryモード

ハイレベル・アウト、11ピン・アウトから出力するオルガン・モデルを設定します。

レンジ：B3, Electr (Vox & Farf), B3+Electr

△ ハイレベル・アウトまたは11ピン・アウトに何も接続されていない場合、すべてのオルガン・モデルの音はメインL/Rアウトから出力されます。

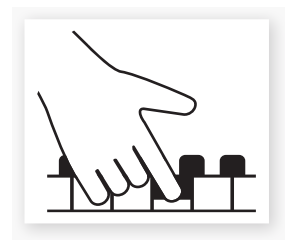
キーボード・トリガー・モード

Nord C2Dのキーボードでオルガン・サウンドを発音させる方法を設定します。「High」の場合、キーボードが最下部まで降りる前に発音させることができ、ビンテージのトーンホイール・オルガンやパイプ・オルガンの発音機構に近い状態を再現できます。

レンジ：High(デフォルト)、Low



High trigger point



Low trigger point

サスティン・ペダル・タイプ

サスティン・ペダルの極性が本機と合わない場合(ペダルから足を離すと音が伸びる場合)に、この設定を変更してサスティン・ペダルの極性に合わせます。

レンジ：Open, Closed(デフォルト)

サスティン・ペダル・モード

サスティン・ペダル・メッセージを受信するか、または本機に接続したサスティン・ペダルの操作をMIDIメッセージとしてのみ送信する(音源モジュールなど、外部MIDI機器のみのサスティンをコントロールする場合等)かを設定します。

レンジ：Normal, MIDI Only

❶ パイプ・オルガンはサスティン・ペダルを使用してもサスティンはかかりません(サスティン・ペダル・メッセージも受信しません)。

スウェル・ペダル・タイプ

コントロール・ペダル(エクスプレッション・ペダル)の電気的特性(抵抗値やオフセット値、リニアリティ等)は、メーカーや製品ごとに異なることがあります。本来は使用するペダルに合わせて細かく調整する必要があるのですが、設定を簡単にするために主要なペダル・ブランドの特性をプリセットにし、使用するペダルに合わせて選択するだけで最適なコントロールを行います。

レンジ：Yamaha FC7, Roland EV5(デフォルト)、Roland EV7, Korg, Fatar SL

ローター・コントロール・タイプ

〔ROTARY CONTROL〕インプットに接続するコントローラーに合わせて、設定を変更することができます。

レンジ：Closed(デフォルト)、Open, Halfmoon

ローター・ペダル・モード

ローター・スピーカーの回転スピード切り替えにサスティン・ペダルを使用する場合、スピードの切り替わり方をここで設定します。「Hold」は、ペダルを踏んでいる間だけファストまたはスローになり、ペダルから足を離すとスローまたはファストに切り替わるモードです（スローまたはファストのどちらが初期状態になるかはペダルの極性によって変わります）。

「Toggle」は、ペダルを踏む都度スローからファスト、またはファストからスローに切り替わるモードです。サスティン・ペダルの代わりにフットスイッチを使用した時と同じ動作です。

レンジ: Hold(デフォルト)、Toggle

MIDIコントロール・ローカル

Nord C2Dのキーボード、フロント・パネルで本体の音源部をコントロールするか、あるいはMIDIノート・メッセージ、コントローラー・メッセージのみを送信するかをここで設定します。通常ご使用になる際はローカル・オン状態にします。ローカル・オフの場合は、キーボードとフロント・パネルからはMIDIメッセージのみが送信され、本体の音源は発音しません。また、「Ext」の場合は、本機のキーボードからキーボード・ベロシティ・メッセージも送信されます。

レンジ: On(デフォルト)、Off、Ext

- ① ローカル・モードは、電源投入時に必ずオンになります。

MIDIアップパー・チャンネル

上鍵盤のMIDI送受信チャンネルを設定します。

レンジ: Off、1~16(デフォルト = 1)

MIDIロワー・チャンネル

下鍵盤のMIDI送受信チャンネルを設定します。

レンジ: Off、1~16(デフォルト = 2)

MIDIペダル・チャンネル

ベース・セクションのMIDI送受信チャンネルを設定します。下鍵盤をスプリットした場合、ベース・セクションの音域を演奏すると、このチャンネルで送信されます。

レンジ: Off、1~16(デフォルト = 3)

MIDIコントロール・チェンジ・モード

フロント・パネルのノブやボタンのMIDIコントロール・チェンジ・メッセージに関する送受信設定を行います。設定は、送受信する(Snd & Rcv)、受信のみ(Receive)、送信のみ(Send)、送受信しない(Off)から選択します。

レンジ: Snd & Rcv(デフォルト)、Receive、Send、Off

MIDIプログラム・チェンジ・モード

プログラム・チェンジ・メッセージの送受信設定を行います。

レンジ: Snd & Rcv(デフォルト)、Receive、Send、Off

MIDIセンドCC

選択しているプログラムの、オンになっているプリセットのすべてのパラメーター・データをMIDIコントロール・チェンジ・メッセージとしてダンプ送信します。(STORE) ボタンを押すとダンプ送信が始まります。

MIDIダンプ・ワン

選択しているプログラムのデータをMIDIシステム・エクスクルーシブとしてダンプ送信します。(STORE) ボタンを押すと送信が始まります。

MIDIダンプ・オール

Nord C2DにメモリーされているすべてのプログラムのデータをMIDIシステム・エクスクルーシブとしてダンプ送信します。(STORE) ボタンを押すと送信が始まります。

システム・エクスクルーシブ・ダンプの受信方法は、23ページのMIDIチャプターでご紹介しています。

サウンド・メニュー

B3トーンホイール・モード

B3オルガン・モデルのトーンホイール・クロストークやケーブル・リーケージのレベルを設定します。

- ① デフォルトのVintage 3モードでは、何も演奏していない状態でもノイズが発生します。

レンジ: Clean、Vintage 1、Vintage 2、Vintage 3(デフォルト)

B3キー・クリック・レベル

B3オルガン・モデルのキー・クリックのレベルを設定します。

レンジ: Low、Normal(デフォルト)、High、Higher

B3キー・バウンス

キー・バウンス機能のオン/オフ設定をします。オンの場合、鍵盤を素早く放すとキー・オフ・クリックを目立たせることができます。

レンジ: On(デフォルト)、Off

B3パーカッションDB9ミュート

オンにすると、オリジナルのトーンホイール・オルガンと同様、9番目のドローパー(1')がミュートされます。

レンジ: On, Off(デフォルト)

B3パーカッション・ディケイ・ファスト

B3オルガン・モデルのパーカッション・ファスト時のディケイ・タイムを設定します。

レンジ: Long, Medium(デフォルト), Short

B3パーカッション・ディケイ・スロー

B3オルガン・モデルのパーカッションがスローの時のディケイ・タイムを設定します。

レンジ: Long, Medium(デフォルト), Short

B3パーカッション・レベル・ノーマル

B3オルガン・モデルのパーカッションがノーマルの場合のレベルを設定します。

レンジ: High, Medium(デフォルト), Low

B3パーカッション・レベル・ソフト

B3オルガン・モデルのパーカッションがソフトの場合のレベルを設定します。

レンジ: High, Medium(デフォルト), Low

ロータリー・スピーカー・タイプ

Nord C2Dには2種類のロータリー・スピーカー・タイプを内蔵し、そのうち1タイプでは2種類のマイク・ポジションを選択できます。「122」は、トラディショナルな、キャビネットからやや離れた位置にマイクを設置した状態、「122 Close」は、キャビネットにマイクを近づけた状態です。「145」は、トラディショナルなマイク・ポジションによるビンテージ145ロータリー・スピーカーを再現したエフェクトです。

レンジ: 122(デフォルト), 122 Close, 145

ロータリー・バランス ベース/ホーン

ベース・ローター、トレブル・ホーンの音量バランスを設定します。

レンジ: 70/30, 60/40, Medium(デフォルト), 40/60, 30/70

ロータリー・ホーン・スピード

ロータリー・スピーカーのトレブル・ホーンのスPEED(ファスト/スロー・モード時)を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

ロータリー・ホーン・アクセラレーション

ロータリー・スピーカーの回転スピードを切り替えた時の、トレブル・ホーンの加速、減速にかかる時間を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

ロータリー・ローター・スピード

ロータリー・スピーカーのベース・ローターの回転スピード(ファスト/スロー・モード時)を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

ロータリー・ローター・アクセラレーション

ロータリー・スピーカーの回転スピードを切り替えた時の、ベース・ローターの加速、減速にかかる時間を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

パイプ・ペダル・レベル

パイプ・オルガン・モデルを選択した時の、ペダル鍵盤(ベース)の音量を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

パイプ・アッパー・レベル

パイプ・オルガン・モデル選択時の、スウェル・マニュアル(上鍵盤)の音量を設定します。

レンジ: High, Normal(デフォルト), Low

ブラック/リリース・メニュー

シンセ・ベース・ブラック

シンセ・ベース・サウンドのアタックを強調するパラメーターです。

レンジ: 0~8(デフォルト=0)

シンセ・ベース・リリース

シンセ・ベース・サウンドのリリース・タイムを設定します。数値を高くするとリリース・タイムが長くなり、鍵盤やペダルを離しても音が長く伸びます。

レンジ: 0~8(デフォルト=0)

7 MIDI機能

MIDI機能について

Nord C2Dでは、次のようなMIDIメッセージの送受信が行えます：

ノート・オン/オフ

- ・ノート・オン、ノート・オフ・メッセージの送受信

コントローラー

MIDIメニュー（20ページをご参照下さい）で、コントロール・チェンジ・メッセージの送受信設定が行えます。

- ・エクスプレッション・ペダルを〔SWELL PEDAL〕端子に接続すると、ペダルの操作をコントローラー#4（スウェル）として送信します。
- ・サスティン・ペダルを〔SUSTAIN PEDAL〕端子に接続すると、ペダルの操作をコントローラー#64（サスティン・ペダル）として送信します。
- ・スイッチ・タイプのペダルを〔ROTOR PEDAL〕端子に接続すると、ペダルの操作をコントローラー#82として送信します。
- ・その他フロント・パネルにあるほとんどのノブやボタンも、コントロール・チェンジ・メッセージの送受信をします。この機能を利用してパネル上の操作をMIDIシーケンサーにレコーディングすることも可能です。各パラメーターとコントロール・チェンジ・メッセージとの対応表は、次のページにありますMIDIコントローラー・リストをご参照下さい。

キーボード・ベロシティ

Nord C2Dは、MIDIローカル・パラメーターの設定が〔Ext〕の場合、またはキーボード・トリガー・モードの設定が〔Low〕の場合に、鍵盤上の演奏からキーボード・ベロシティ・メッセージを送信できます。これらのパラメーターの設定はシステム・メニューで行います。詳細は20ページをご参照下さい。なお、鍵盤上での演奏の強弱や、入力したベロシティ・メッセージに関係なく、本体のオルガン・サウンドは一定のレベルで演奏されます。また、本機でベロシティ・メッセージが送信可能な場合、リリース・ベロシティも送信されます。

プログラム・チェンジ

システム・メニュー（20ページをご参照下さい）で、プログラム・チェンジ・メッセージの送受信設定が行えます。

本機でプログラムを選択すると、プログラム・チェンジ・メッセージが送信されます。また、本機で設定したMIDIチャンネルと同じチャンネルでプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、受信したメッセージに応じたプログラムに切り替わります。

本機では、127個のプログラム・ナンバー（プログラム1～126とLive）をMIDIプログラム・チェンジ0～126として送受信します。

MIDIシステム・エクスクルーシブ

個々のプログラムや、本機全体のプログラムのデータをシステム・エクスクルーシブ・ダンプとして送受信することができます。

シーケンサーを使う

接続する

- ① 本機のMIDIアウトとシーケンサーのMIDIインをMIDIケーブルで接続します。
- ② シーケンサーのMIDIアウトと本機のMIDIインをMIDIケーブルで接続します。

ローカル・オン/オフについて

Nord C2Dでの演奏をシーケンサーにMIDIでレコーディングしたり、その演奏をシーケンサーでプレイバックする際には、ローカル・オフにすることがあります。これは、シーケンサーが入力したMIDIデータをそのままエコーバック（スルー）する仕様の場合、Nord C2Dがローカル・オンになっていると本機で演奏したりパネル上のノブなどをコントロールする都度、シーケンサーからスルーされるMIDIデータと2重になってしまい、演奏やコントロールが不必要に重なってしまいます。このような場合、本機のローカル・モードをオフにすることで問題を解消できます。20ページのシステム・メニューをご参照下さい。

MIDIチャンネル

Nord C2DのMIDIチャンネルは、システム・メニューのMIDIセクションで設定します。20ページをご参照下さい。

プログラム・チェンジ

通常、プログラム・チェンジのデータはシーケンサーの各トラックの設定に記録されます。本機の127個のプログラム・ナンバー（Liveを含みます）は、プログラム・チェンジ0～126に対応しています。

プログラム・チェンジ・メッセージをレコーディングする場合は、シーケンサーをレコーディング状態にし、Nord C2Dでプログラムを選択すればOKです。

コントロール・チェンジ

本機のパネル上のノブの動きやボタンの操作をレコーディングする場合、シーケンサーからのエコーバックが正しいMIDIチャンネル（本機と同じチャンネル）になっていることを必ずご確認ください。そうでないとレコーディングしたデータを受信できません。

曲中のコントロール・チェンジのレコーディングについて

例えば曲の中間部でドローバー操作などのコントロール・チェンジをレコーディングしたとします。レコーディング後に、ドローバー操作をレコーディングしたポイントよりも前の部分にシーケンサーを戻したとします。ここで1つ問題が起きます。シーケンサーはドローバー操作をする前のポイントに戻っていますが、Nord C2Dのドローバーは操作したままの状態です。このままプレイバックをしても、レコーディングしたドローバー操作は正しく再生されません。

このような問題を回避するには、その曲で使用するプログラムのコントローラーの状態を、曲の先頭でレコーディングしておくことをお勧めします。詳しくは次のページの「MIDIコントローラー・ダンプを送信する」をご参照下さい。

プログラム、CCダンプ

プログラムのデータやMIDIコントローラーのデータを、別のNord C2Dやシーケンサーなどを含む外部MIDI機器へシステム・エクスクルーシブやMIDIメッセージで送信するには、次の手順で行います：

プログラム・ダンプを送信する

- ① Nord C2DのMIDIアウトと、外部MIDI機器のMIDIインをMIDIケーブルで接続します。
- ② 受信側の機器をMIDIシステム・エクスクルーシブ、MIDIコントローラー・データを受信できる状態にします。
- ③ Nord C2Dの〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔SYSTEM〕ボタンを押し、〔UP/DOWN〕ボタンで「Dump One」または「Dump All」を選択します。
- ④ 必要に応じて、受信側のMIDI機器をレコーディング・モードにします。
- ⑤ Nord C2Dの〔STORE〕ボタンを押すと、本機のMIDIアウトからデータがダンプ送信されます。この時、2つのアスタリスク(**)がディスプレイに表示されます。送信が終了すると、ディスプレイの表示が2つのハイフン(--)に変わります。

MIDIコントローラー・ダンプを送信する

- ① 上述の手順(「プログラム・ダンプを送信する」)の1~2を行います。
- ② 〔SHIFT〕ボタンを押しながら〔MIDI〕ボタンを押し、〔UP/DOWN〕ボタンで「Send CC」を選択します。
- ③ 〔STORE〕ボタンを押すとNord C2DのMIDIアウトからMIDIコントローラー・データがダンプ送信されます。この時、2つのアスタリスク(**)がディスプレイに表示されます。送信が終了すると、ディスプレイの表示が2つのハイフン(--)に変わります。

この手順により、Nord C2Dの各ノブやボタンのその時の状態を各コントロール・チェンジの値として外部MIDI機器に送信することができます。

MIDIシステム・エクスクルーシブ・ダンプを受信する

MIDIシステム・エクスクルーシブ・ダンプの受信方法は、次の通りです：

- ① 送信側のMIDI機器のMIDIアウトと、Nord C2DのMIDIインをMIDIケーブルで接続します。
- ② 送信側のMIDI機器で、データ送信の操作を行います。

送信するデータがNord C2Dのすべてのプログラムの場合、受信するNord C2Dのすべてのプログラムが送信されたデータに置き換わります。また、送信するデータがNord C2Dのプログラム1つ分の場合は、受信するNord C2Dでその時選択していたプログラムにデータが入り、ディスプレイに表示されているプログラム・ナンバーの右にアスタリスク(*)が表示され、そのデータをプログラムとして保存したい場合は、通常の保存操作を行います。

MIDIコントローラー・リスト

以下の表は、Nord C2Dのフロント・パネルにあるノブやボタン、接続したペダル類から送信されるMIDIコントローラー・ナンバーをまとめたものです。アスタリスク(*)が付いている項目は、上下鍵盤またはペダル(ベース)でそれぞれ異なるMIDIチャンネルで使用できるものです。

Nord C2Dパラメーター	MIDIコントローラー・ナンバー
Organ Model Selector	9
Synth Bass On/Off	110
Speaker Sel	81
Delay Tempo	77
Delay Feedback	78
Delay Swell Only	75
Delay Amount	76
Delay On/Off	80
EQ Treble	113
EQ Mid	116
EQ Bass	114
EQ On/Off	115
Drive Amount	111
Drive On/Off	112
Reverb Amount	102
Reverb Selection	96
Reverb On/Off	97
Vib/Chorus/Trem Mode	84
Vib On/Off (SW/GR) *	85
Drawbar/Presets *	3
Ped Great Man	117
Rotary Speaker Control	82 (0 = スロー、64 = ストップ、127 = ファスト)
Ped/GR Low coupler	103
SW 16/GR - SW/GR	104
Drawbars -	上鍵盤、下鍵盤、ベースでそれぞれ異なるMIDIチャンネルにて送信可能
Drawbar A1 *	16
Drawbar A2 *	17
Drawbar A3 *	18
Drawbar A4 *	19
Drawbar A5 *	20
Drawbar A6 *	21
Drawbar A7 *	22
Drawbar A8 *	23
Drawbar A9 *	24
Drawbar B1 *	36
Drawbar B2 *	37
Drawbar B3 *	38
Drawbar B4 *	39
Drawbar B5 *	40
Drawbar B6 *	41
Drawbar B7 *	42
Drawbar B8 *	43
Drawbar B9 *	44
Perc On/Off	87
Perc Soft	28
Perc Fast	27
Perc Third	95
Swell 16 & 4 coupler	105
Swell/Ped & Gr/Ped coupler	106
Sustain Pedal	64
Swell Pedal	4
Rotary Control	82 (パネルと同じ)

MIDIインプリメンテーション・チャート

機能		送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル		1-16	1-16	
デフォルト・チャンネル		1-16	1-16	
モード	デフォルト メッセージ その他	モード3 ×	モード3 ×	
ノート・ナンバー	トゥルー・ボイス	0-127	0-127	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○、v = 1-127 ○、v = 1-127	○、v = 1-127 ○、v = 1-127	
アフター・タッチ	キー チャンネル	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール・チェンジ		○	○	
プログラム・チェンジ トゥルー#		○、0-127	○、0-127	
システム・エクスクルーシブ		○	○	
システム・コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
システム・リアルタイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他のメッセージ	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × × ×	× × × ×	
ナンバー	トゥルー・ボイス			

Mode 1: Omni On, Poly - Mode 2: Omni O, Mono - Mode 3: Omni Off, Poly - Mode 4: Omni Off, Mono - O = Yes - X = No

Model: Nord C2D OS v1.x Date: 2012-03-01

8 付録

Nord Sound Manager

Nord Sound Managerは、Nord C2Dのメモリー・エリアを管理するアプリケーション・ソフトウェアです。コンピュータからNord C2Dにプログラム・データを転送(ダウンロード)したり、逆にNord C2Dからコンピュータにプログラム・データを転送(アップロード)することができます。Nord Sound Managerは、様々な方法でプログラムなどのデータをNord C2Dにダウンロードしたり、Nord C2Dのメモリー内容をバックアップ・ファイルとしてコンピュータに保存したり、コンピュータに保存してあるバックアップ・ファイルをNord C2Dへ戻すこと(レストア)が行えます。

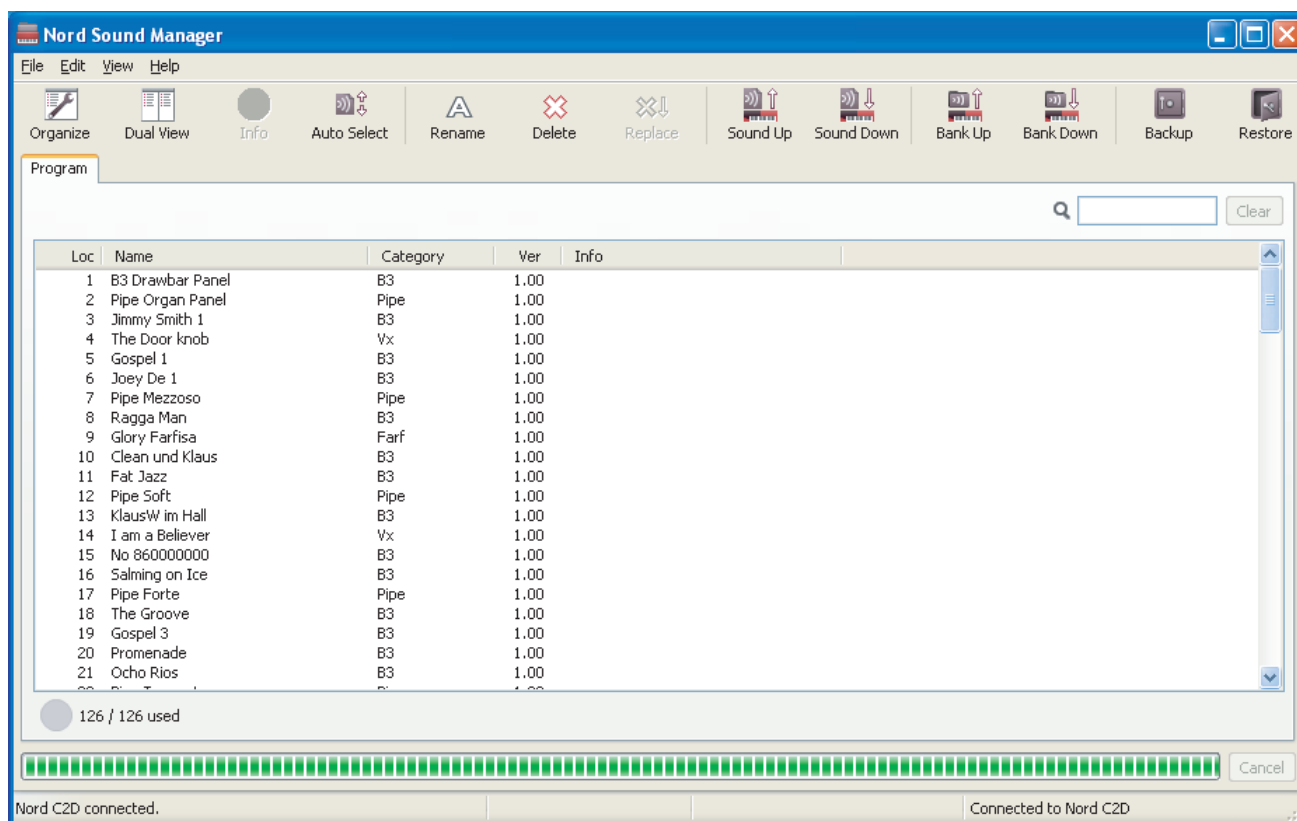
動作環境

Nord Sound Managerの対応OSは、Mac OSX 10.4以降、Windows XP、Windows Vistaです。Nord Sound ManagerをWindows PCでご使用になる場合は、別途Clavia USB Driver v3.00以降をインストールする必要があります。ドライバーソフトやインストール方法のインストラクション(英文)は、本機に付属のCD-ROMに収録されています。

アップデート

Nordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)では、Nord C2DのOSアップデートや最新情報などを掲載しています(英文)。最新OSなどのデータは、Nord C2Dダウンロード・エリアから無償でダウンロードできます。

また、Nord Sound Manager、USB driverや詳しいインストール方法などもNordウェブサイト(www.nordkeyboards.com)からダウンロードできます。



9 インデックス

英数

B3モデル 13
 (Drwb A)ボタン 9
 (Drwb B)ボタン 9
 EQ 17
 Farfモデル 14
 (GR/PED)ボタン 15
 MIDIコントローラー・リスト 23
 MIDI IN 6
 MIDI OUT 6
 (ON/OFF)ボタン 5
 PED/GR LOW 15
 (SHIFT)ボタン 5、12
 Sound Manager 25
 (STORE)ボタン 9、17
 SW 16/GR 15
 SWELL 4 15
 SWELL 16 15
 SW/GR 15
 SW/PED 15
 (TEMPO)ノブ 17
 (TO GREAT)ボタン 16
 USB接続 6
 VXモデル 14

ア行

アウトプット・ルーティング 19
 Ext Rotaryモード 19
 インプリメンテーション・チャート 24
 エディット 8
 エフェクト 10、17
 エフェクト・エリア 17
 オーディオの接続 6
 オルガン・エリア 12
 オルガン・セクション 16
 オルガン・モデル 10

カ行

カブラー 15
 キー・クリック・レベル 20、21
 キーボードトリガー・モード 19
 キーボード・ペロシティ 22

サ行

サード(パーカッション) 13
 サウンド・メニュー 20
 サスティン・ペダル 6、19
 サスティン・ペダルの極性 19
 サスティン・ペダル・モード 19
 システム・メニュー 19
 シンセ・ベース 16
 シンセ・ベース・ブラック 21
 シンセ・ベース・リリース 21
 スウェル・ペダル 6
 スウェル・ペダル・タイプ 19
 ステージ・リバーブ 18
 ステージ・ソフト 18
 ストップ 15
 スピーカー・モデル 17
 セレクター・ボタン 5
 ソフト(パーカッション) 13

タ行

ディレイ 17
 トーンホイール・クロストーク 20
 トーンホイール・モード 20
 ドライブ 17
 トランスポーズ 19
 トレブルEQ 17
 トレムラント 15
 ドローパー 12

ハ行

パーカッション 13
 パーカッションDB9ミュート 21
 パイプ・オルガン 15
 ビブラート(B3) 14
 ビブラート(VX) 14
 ファスト(パーカッション) 13
 フィードバック 17
 プリセット 9
 プリセットのセッティング 12
 プリセットの選択 13
 プリセットをエディットする 9
 プリセットを作成する 10
 プログラム 8、16
 プログラム・メモリー 8
 ベースEQ 17
 ベース・ペダル 7
 ペダル・プリセット 11、16
 ヘッドフォン 7
 ペロシティ 22
 ホール・リバーブ 18
 ホーン・アクセラレーション 21
 ホーン・スピード 21
 保存する 9

マ行

マスター・レベル 5、12
 ミッドEQ 17
 メモリー・プロテクト 8、19
 モニター・イン 7

ラ行

ライト・アウトプット 7
 ライブ・メモリー 9
 リバーブ 18
 ルーム・リバーブ 18
 レフト・アウトプット 7
 ローター・スピード 21
 ローター・ペダル 19
 ローター・ペダル・モード 20
 ロータリー 17
 ロータリー122 21
 ロータリー145 21
 ロータリー・アクセラレーション 21
 ロータリー・コントロール 6
 ロータリー・コントロール・タイプ 19
 ロータリー・スピーカー 7
 ロータリー・スピーカー・タイプ 21
 ロータリー・バランス 21

Nord C2D 仕様

一般

- マスターレベルコントロール
- 上下鍵盤でそれぞれドローバー・セットを2組装備
- ペダルドローバー
- 126プログラム
- ライブ・バッファ

オルガン・セクション

- トーンホイール・オルガン、Vox Continental、Farfisaモデル(全鍵発振)
- パイプ・オルガン(パロック・スタイル、23ストップ、同時発音数はストップの使用量によって変化します)
- ベース・モデル(トーンホイール、シンセ・ベース、パイプ・オルガン)
- ドローバー・プリセット×6(各プログラム)
- パーカッション・コントロール
- ビブラート/コーラス/トレムラント・コントロール

ストップ(パイプ・オルガン)

上鍵盤	下鍵盤	ペダル
Fugara 8	Principal 8	Subbas 16
Rohrflöte 8	Gamba 8	Fagot 16
Principal 4	Gedackt 8	Gedackt 8
Spitzflöte 4	Octava 4	
Nasat 3	Rohrflöte 4	
Flöte 2	Qvinta 3	
Vox Celeste	Octava 2	
Scharf II-III	Mixtur III-IV	
Oboe 8	Trumpet 8	

カブラー(パイプ・オルガン)

PED/GR. Low
SW 16/GR
SW/GR
Swell 16
Swell 4
SW/PED
GR/PED

エフェクト・セクション

- 3バンド・イコライザー
- オーバードライブ
- 3タイプのスピーカー・シミュレーション: 2種類のロータリー・スピーカー・モデル(122、122 Closeおよび145、回転スピード選択可能(スロー、ファスト、ストップ))を含む
- デイレイ: フィードバック、タップテンポ機能付き
- リバーブ: 6アルゴリズム

鍵盤部

- 61鍵ミディアム・ウェイテッド、ウォーターフォール鍵盤×2段

接続端子

- ヘッドフォン・アウト: 標準ステレオ・フォン・ジャック
- メイン・アウト(L/R): 標準フォン・ジャック×2、アンバランス接続
- ハイレベル・アウト:
 - 11ピンLeslieスタンダード・コネクター
 - 標準フォン・ジャック
- モニター・イン: ミニ・ステレオ・ジャック
- サステイン・ペダル・インプット: 標準フォン・ジャック、モーメンタリー・タイプのペダルをご使用下さい。
- ローター・コントロール・インプット: 標準フォン・ジャック、モーメンタリー・タイプまたはスイッチ・タイプのペダル、あるいはハーフムーン・スイッチ(別売オプション)をご使用下さい。
- スウェル・ペダル・インプット: 標準ステレオ・フォン・ジャック(TRS)、エクスプレッション・ペダルをご使用下さい。
- MIDIイン、MIDIアウト、ベース・ペダルMIDIイン
- USB: タイプBコネクター
- ACインレット

付属品

- 取扱説明書
- 電源コード
- CD-ROM

外形寸法

- 966 (W) x 445 (D) x 163 (H) mm

重量

- 16kg

仕様は予告なく変更することがあります。

Vox, Farfisa, その他本マニュアルに記載のClavia社以外のブランド名、商品名は、それぞれの所有者が保有する商標であり、Clavia社とは一切関係ありません。これらの商標は、本機の機能やサウンドを説明するためにのみ使用しています。また、Leslieは接続端子の規格を説明するためにのみ使用しています。

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。
記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになつたらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、またはお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。


WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

【修理ご相談窓口】


ヤマハ修理ご相談センター

 ナビダイヤル(全国共通番号):0570-012-808 左記番号でつながらない場合:053-460-4830

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

【お取扱いに関するお問い合わせ窓口】

お客様コミュニケーションセンター シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

 ナビダイヤル(全国共通番号):0570-015-808 左記番号でつながらない場合:053-460-1666

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

輸入販売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

楽器営業本部 LM営業部 輸入商品課
〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11
TEL: 03-5488-5445
<http://www.nordkeyboards.jp/>